L3T/L3TK/L3TF

本科１期６月度

解答

Ｚ会東大進学教室

難関国公立大国語／難関大国語Ｔ
京大国語／難関大国語Ｔ（京大）
一橋大国語／難関大国語Ｔ（一橋大）

8章

【問題】（演習）

出典…『加藤弘之文書』／一橋大学　03年・一部改

文章略解

天則とは宇宙に存在する天然の法則のことで、普遍性を有し、かつ一定不変であるところに特徴がある。天則は人間の意志まで含めた全てを支配する法則であるが、人間には他の生物と異なり、天則を知り、活用する能力が備わっている。我々人間は、この天則を社会学という学問として育成・発展させていくことによって、将来的には、社会のあらゆる現象の因果関係を解明し、人間社会に繁栄をもたらすことも可能になるのではないか。

解答

問1　普遍性と不変性

問2　天則は吾人の意志を含む全てを支配する。〔19字〕
吾人は禽獣と異なり、天則を活用できる。〔19字〕

問3　天則を知るための生来の能力、才能のこと。

問4　社会学とは、社会が進化する過程や社会における諸現象の因果関係を解明する学問であり、生物学等の学問の力を借りて社会を支配する天則を明らかにし、学問が発展すれば社会の衰亡を防ぎ、繁栄に資することができる。〔100字〕

【問題】（自習）

出典…夏目漱石『文学談』／一橋大学　前期日程　95年

文章略解

小説を書くと、どうしても作者の道徳上の好悪が作品中にあらわれてくる。世間で言う道徳に反していても、作者の良心に基づく見識が表明されているという点で、文学は一種の勧善懲悪である。こうした見識のない作品は文学上の価値を持たないものであり、したがって小説家は自らの人生観を常に鍛えなければならない。その小説家の人生観が作品をとおして読者の人生観に影響を及ぼしたとき、勧善懲悪主義は文学上に発揮されたと言える。

解答

問1　A＝黒白　B＝奨励　C＝怠　D＝換言　E＝美質

問2　イ＝嫌悪・憎悪など　ロ＝是非・是認など　ハ＝称賛・称揚など　ニ＝要約・要点など

問3　深い思考による判断〔9字・解答例〕　問4　ロ

解説

問2　「熟語中のその字の意味が本文中での意味と同じであるようにせよ」という指示がポイント。それぞれの傍線部分になっている漢字には複数の意味があり、それらの意味の中での識別も求められているわけだ。日頃から、熟語との関係で意味を識別していくようにするといい。

イの「好悪」は「好きか嫌いか」ということ。ここでの「悪」は「嫌う」という意味である。その意味に相当する熟語を挙げれば解答として妥当である。この場合、「悪」は「アク」ではなく、「オ」と音読みする（このように、ひとつの漢字に複数の読みが

ある場合には、読みの区別が意味の区別になっている場合が多い）。

ロの「是」は、直前の「道徳どおりを、道徳どおりと示す」（18行目）云々とあるところに照らせば、「そのまま認める」の意味であって「これ」（代名詞）ではないことがわかる。これについても「ゼ」と音読みする熟語を想像していくことから解答が導ける。

ハの「称す」は前の「是と感ぜしめる」と並列されていることから考えれば「ほめたたえる」の意味であって単に「呼ぶ」というだけではないことがわかる（この場合はどちらも「ショウ」と音読みするのでそれだけで識別はできない）。したがって「呼称」「愛称」「通称」などでは不適切。

ニの「要」は「中心部分」（かなめ）の意味（これも**ハ**と同様、音読だけでは識別できない）。したがって「必要」「要求」などの「なくてはならない」という意味のものでは不適切。

問3　問題文中で「見識」という語についての説明がなされている部分を探していくことから手がかりが得られる。**問2**の**ニ**の部分（19行目）に「要するに自己の見識に負かぬ……」とあるところの前を見れば、ここで筆者（夏目漱石）の言う「見識」とは具体的には「自分の良心にはずかしからぬように……価値があるようにもかこうし」（17行目～19行目）ということになる。要約すれば「価値判断にあたっての自分の良心」ということになろうか（これは、33行目の「作者の見識で判断し得たとき」という記述にも適う）。また、これに続く記述の中にも「そうしてこの見識は……出来るものだ」（20行目）とあるところも手がかりにして考えれば、「深い」ものであるということも読みとれよう。以上二点「価値判断にあたっての・深い思索」のエッセンスが含まれた十字以内の語句が答えられれば出題者の要求には合うものと思われる。

問4　この傍線部分の記述が直前の内容の言い換えである（「のだ」もしくは「のである」という文末表現は、念押し・再確認の意味合いを持つ）ことに気がつけば、選択肢を絞り込んでいく手がかりが得られよう。「作者は現今普通人の有している人生観を少しでも影響し得た」（32行目）「しかもその人生観が間違っておらぬと作者の見識で判断し得た」（32行目～33行目）などの記述から考えれば、ここで筆者（夏目漱石）の言う「勧善懲悪主義」とは、作者と読者との「善悪に関わる人生観」の交換であるということがわかる。この点をきちんと踏まえた選択肢は**ロ**の後半の「読者の道徳観に影響を及ぼす」の部分。**ニ**のように「世間の道徳観に対抗」するとは限らない。問題文ではあくまでも「人生観を少しでも影響」するか否かという叙述の域を出ていない。**イ**の「読

者がなるほどと同意する」というのもこの点で弱い。**ハ・ホ**はこうした「読者に与える影響」ということが全く述べられておらず、的外れ。

9章

【問題】（演習）

出典…村上陽一郎『安全学』「第Ⅰ部　文明と安全　2　文明のイデオロギー」／　大阪大学　人間科学部・法学部・経済学部　00年

文章略解

かつては、どの文化圏においても自然は脅威と捉えられていた。西欧キリスト教世界においても、神の被造物である自然に対しての人為の介入は忌避されていた。しかし、一八世紀以降の啓蒙主義は、すべてを人間理性の支配下に再編成することを旨とした。そこでは神の被造物としての自然への畏敬は消え、人間の理性がすべてを取り仕切ることができるという傲慢が起こった。自然＝野蛮＝非文明という考えが起こったのはここからである。

解答

問1　自然への姿勢の急旋回〔10字・解答例〕

問2　キリスト教こそ、今日の地球環境の危機を招いた元凶である〔27字〕（15行目）

問3　文明のイデオロギー（34行目）

問4　一七世紀以前、人々は自然を神の被造物として捉え、それへの人為の介入を忌避していた。しかし一八世紀以降の啓蒙主義によって、自然を放置することは野蛮であり、人間理性の支配下に置くべきだとする考えが生じた。〔100字・解答例〕

【問題】（自習）

出典…丸山圭三郎『言葉と無意識』〈プロローグ〉の冒頭の一節　／　大阪大学　92年

文章略解

言葉には〈道具としての言葉〉と〈情念の言葉〉という二つの種類の言葉があるが、これらは実は同一のものである。そこには、人間の文化と意識そのものとの、重層性が暗示されている。文化は文化であると同時に生命の波動でもあるが、私たちは、この言葉と文化の問題を考え直す必要がある。私たちは、言葉の探究を意識の深層にまで掘り下げることによって、文化の底に潜んでいる流動的な力に気づかせられる。言葉とは、人間と人間、人間と万物の交感を可能にする器官でもある。

解答

問1　A＝(エ)　　B＝(イ)

問2　(a)＝個々の出会いが双方の心に独自の意味づけを与えあうこと。〔27字・解答例〕
(b)＝日常生活とはかけ離れた、限られた人々が味わう限定的な状況。〔29字・解答例〕

問3　(ウ)

問4　D＝(ウ)　　E＝(ア)　　F＝(エ)

解説

問1　空欄A・Bを含む文が「～一方にある……他方に存在する～」という構造になっていることから、両者は対比されているものと見抜ける。そして、空欄Aの前には「明晰にして合理的」「指示する対象が一つしかない」、Bの前には「二重三重の意味をはらみ、確たる対象をもたない」という修飾句がある。また空欄部分の直後にそれぞれの具体例としてA＝「数学・物理学」、B＝「神話・詩」が挙げられている。そしてこれを受ける形で、A＝〈道具としての言葉〉、B＝〈情念の言葉〉という対立が明示されている。さらに直後の段落では、「一義的な交通信号や正確な報道写真のたぐい」＝Aと、「同一の物が多様に見えるイメージを～ガウディ」＝Bという例も挙げられている。これらをまとめると、次のような図式が見えてくる。

A＝明晰にして合理的・指示する対象が一つしかない＝一義的・正確・道具→数学・物理学・交通信号・報道写真

B＝二重三重の意味をはらみ、確たる対象を持たない＝同一の物が多様に見えるイメージ・情念→神話・詩・ダリなど

ここから、「一義的・正確・道具」などのAの具体例に相当するものを求めると、「交通信号」にほぼ等しい「信号」＝(エ)が選べよう。(ウ)も意味的には近いが、「具象のような言葉」という表現はやや不自然。「指示する対象が一つしかない」ことは「具象的」ではあるが、「具象のような」とわざわざ比喩的に述べる必然性はない（このように「日本語としての流れの自然さ」というのも重要な判断材料になる）。ここでは、直後の「のような」という語とのつながりがカギになる。同様に、空欄Bに入れるものとしては(オ)や(カ)は不適切ということになる。「暗示的」「抽象的」とは言い得るが、「暗示のような」「抽象のような」ではおかしい。ここには、「複数の抽象的なイメージをある具体物に置きかえて表現すること」の意味を持つ(イ)を素直に入れておこう。

問2　傍線部(a)について。直前の「見るたびに～与え返す」の部分が傍線部(a)の説明になっている。したがって、この「見るたびに、聞くたびに、その都度新しい意味を与えられ与え返す」の部分を制限字数内で言い換えればいい。

言い換えにあたっては、文脈から意味を特定させていくことを考える。「見るたびに、聞くたびに」を一般化させれば「ひとつひとつの体験」ということになる。「新しい意味」の部分については、これが人間の心に与える「意味」であることを「ある時は……感動し、ある時は……深く傷ついてしまう」という記述を手がかりにしてつけくわえる必要がある。また、「与えられ与え返す」（13～14行目）という表現に対応させるべく、コミュニケーションの双方向性に言及することも忘れずに。

解答としては、以下の三点に相当する要素が含まれていればいい。

・「見るたびに、聞くたびに」⟶各々の体験
・「新しい意味」⟶その人の心に与える「意味」
・「与えられ与え返す」⟶双方のコミュニケーション

傍線部(b)については、直後の「限らない」という表現から、限定的な状況であることは容易につかめる。あとはこれが「さりげない日常会話」と対比させられていることを押さえればいい。ポイントは、「限定的」「非日常的」の二点である。

問3 直前に「いわば」があるので、Cは、前の部分を換言したものであるとわかる。つまり、「表現と内容を切り離すことのできない」のエッセンスがCであるのだ。そこで、選択肢の中から「表現＝内容」というニュアンスを持つものを探す。(ウ)の「身振り・表情」がまさにこれにあたる。(イ)は、感情（＝内容）と表現が切り離されていることになるので不適切。(エ)は、問題文の「伝達する意味とは無関係」（15行目）という記述から外れる。(ア)を入れると、「怒り」＝「赤い顔」であり、「顔」＝「言葉」になってしまうので、やはりおかしい。

問4 段落冒頭にある接続詞の問題では、段落単位で前後関係をつかむことがポイントとなる。

Dについて。前の段落では具体例が挙げられていたが、この段落ではそれを「狭義の言葉の問題ではなく」と一般化している。よって、次に続くものを一般的に敷衍（ふえん）させる意味を持つ(ウ)がベスト。(ア)・(イ)はいずれも逆接的に用いられ、(エ)は因果関係を示す際に用いられる。

Eについては、各選択肢が「これ」で始まっていることから指示内容をまず考えていく。この「これ」とは、「二千数百年来～とらえなお」（20～21行目）すこと。この部分と、空欄直後の「意識の表層～おろす営み」が同一内容であることは比較的容易に読みとれる。だとすると(ウ)のように因果関係を表すものは入りにくい。また、(イ)や(エ)のように他と区別するニュアンスを帯びるものも（これらと異なる「営み」が問題文のここまでのところに明確に示されているわけではないので）やはり不適切。

Fについて。空欄直前の「言葉とは、意識の表層における～器官でもある」（28～29行目）のうちの、「人間と人間、人間と万物の交感」は、F以下の「東洋の神秘主義」に相当する考え方である。そして、この「言葉」を「人間と人間、人間と万物の交感を可能にする器官」と捉えることによって、「異文化間の対話」も可能になるというのがFの前後の内容である。とするとここで大

切なのは、「西欧の考え方」ではなく、「東洋の神秘主義」であることがつかめる。しかし問題文では、「立ち戻ればいいというのではない」とあり、また、「西欧文化を知ることによって～多元化すべき」とあるところから、ここでは東洋思想一辺倒ではないということを一旦アピールするために、譲歩のニュアンスを持つ語を入れればよいと推測できる（このような形の展開パターンは、往々にしてあり得ることと心得ておかれたい）。ちなみに、(ア)・(ウ)は換言、(イ)は因果関係を表す。

●メモ●

10章

【問題】（演習）

出典…岩井克人『未来世代への責任』／金沢大学　02年

文章略解

経済学は倫理を否定し、自己利益の追求こそが社会の利益であるとする。環境問題の場合も、私的所有制の下自己利益を追求することで合理的に解決がはかられると考える。しかし、地球温暖化の問題では、利害関係の一方の当事者である未来世代が存在しないため、経済学の論理によって自己利益を追求する限り、問題解決は不可能となる。結局、経済学の論理を突き詰めると経済学が追放したはずの「倫理」が問題解決のため不可欠となる。

解答

問1　(1)　枯渇（涸渇）　(2)　元祖　(3)　過不足　(4)　補償額　(5)　批准

問2　経済学者は、環境破壊が私的所有制の下で自己利益を追求することによって引き起こされるという社会的通念を否定し、利益の追求こそが環境破壊を防止すると考え、倫理を否定するから。〔85字・解答例〕

問3　環境問題は一般に経済学の論理によって解決可能な問題であるが、地球温暖化の問題は利害の対立する一方の当事者が現実には存在しない未来世代であるという特殊性を有し、経済学の論理で対応できない解決困難な問題であることが事の本質だから。〔113字・解答例〕

問4　後見人や医者は、自身の権利を行使できない弱者に対し常に一定の責任を負っており、無力な未来世代に対して責任を負うべき現在世代と同様の立場にあるから。〔73字・解答例〕

問5　経済学者の立場に徹することで、あえて人間的倫理を否定することから出発し、経済学の論理を突き詰めた結果、地球温暖化という未曾有の環境問題解決のためには「倫理」を回復するしかないことを証明したから。〔97字・解答例〕

【問題】（自習）

出典…阿部謹也『「世間」とは何か』／千葉大学　前期日程　96年

文章略解

西欧の「社会」とは、個人の尊厳を認め個人の意思に基づいてそのあり方も決まるという集団であるが、日本の「世間」とは、自分が加わっている比較的小さな人間関係の環で、すでに与えられているものである。我々日本人は常に「世間」の目を意識し、それを基準としているが、その掟を守っている限りは何らかの位置が保てるものである。このように、「世間」という基準に依存して生きる日本人を、欧米人はしばしば権威主義的だと言うのだ。

解答

問1　①＝頻度　②＝譲　③＝奪　④＝指針　⑤＝想定

問2　社会が、その尊厳が認められた個人が集まって作りあげる集団であるのに対し、世間とは、あらかじめ与えられて行動の基準となる、身近で比較的小さな人間関係の環である。〔79字・解答例〕

問3　昔から人々の間で言い習わされてきた、教訓的内容の短い文句。〔29字・解答例〕

問4　A＝後ろ指　B＝顔向け

問5　日本人は長～らである。（33～34行目）

問6　C＝(エ)　D＝(イ)

問7　欧米人が自分という個人を基準として人間関係を築いているのに対して、日本人は自分の意見ではなく、世間という権威に依存してそれに合わせて生きようとしている点。〔77字・解答例〕

解説

問2　この設問や**問7**のように「相違」や「対比」の説明が求められている場合には、「双方の分量は等しく、内容は対比的に」ということを心がけるといい。ここでは、「世間」と「社会」という、どちらも人間の集団を意味する語が、問題文中でどのように「違うもの」として扱われているかをまとめていけばいい。

両者の違いについては、第二段落の記述が参考になるだろう。「西欧では社会というとき、個人が前提となる」→「個人は……尊厳をもっている」→「その個人が集まって社会をつくる」という一連の記述だ。これに対して「世間」は「所与とみなされている」（12行目）のだ。まずは「社会＝つくりあげるもの」に対して「世間＝所与のもの」、という相違点の指摘がほしい。

また、その前提としての「個人の尊厳」が「社会」にはあるのに対し、日本においては「いまだ個人に尊厳があるということは十分に認められているわけではない」（10～11行目）のである。ではその「個人の尊厳がない人たち」の集まる「世間」とは何なのか。次段落の「世間は社会ではなく……小さな人間関係の環なのである」（17～18行目）の一文がヒントになろう。「社会＝尊厳のある個人の集まり」に対して「世間＝小さな人間関係の環」ということだ。「八十字以内」ならばこの点も含めることが可能だ。

以上の点が含まれた解答ならば基本的にＯＫ。

問3　「諺」は「ことわざ」と読む。このことを知っていれば解答の内容は容易であろう。ポイントを押さえた簡潔な記述をするためには、「ことわざ」というものの持っている性質を箇条書きにして、「ことわざ」を特定するために最低限必要なものを吟味していけばいい。この場合で言えば、以下の三つの性質については（解答欄の大きさにもよるが）言及しておく必要があろう。

→【①古くからの言い習わしであること／②教訓に通じるものであること／③比較的短い文句であること】

①だけでは「慣用句」との区別がつかないし、③を加えないことには「説話」との区別がつかない。おそらくは（採点基準が公表されていないので確言はできないが）この三つのポイントが揃っていることが完答の条件であろう。要するにこの部分は「渡る世間に鬼はなし」「世間の口に戸は立てられぬ」などのように、「世間」という語が諺の中に頻出していることを述べているわけだ。

問4　いずれも慣用句にからむ空欄補充である。国立の教員養成系や早大・政治経済学部などでこうした語学的知識をダイレクトに問う設問が課されることがある。志望者諸君は慣用句・諺・故事成語・四字熟語等についての知識固めをしておいた方がいいだろう。

ここでは「世間から後ろ指を指される」で「陰で悪口を言われる」、「世間に顔向けできない」で「他人に対して堂々と振る舞えない」という意味になっている。

問5 直後の「もし今突然世間が……困惑してしまうだろう」の一文（32行目）が、傍線部分の言い換えになっていることを押さえたい。そうすれば、その後の「日本人は……からであり、世間も……からである。」の一文がこの内容の理由の説明になっているということは容易に読みとれよう。設問において求められているのが「理由を最も端的に表す一文」なのであるから、「……からである」という語尾はまさにこれに相当している。

問6 それぞれの接続詞の機能をまずは確認しておこう。(ア)は累加、(イ)は逆接・対比、(ウ)は添加、(エ)は順接・因果のはたらきである。また、空欄はいずれも文の冒頭（段落冒頭ではない）に設けられているので、とりあえずは「前の文とその文」というふうに文単位で前後を見比べていくといいだろう。

C については、「世間の内部では競争はできるだけ排除されている」（34行目）の一文が、直後の「あまり有能とはいえない人」が「排除されることはない」ということの理由になっていることから(エ)を入れればいい。D の前では、「能力のある者がそれなりの評価を受ける保証はない」と述べられているが、それに対して後の文で「能力の如何を問わず何らかの位置は世間の中で保てる」（38行目）とされているのであるから、ここには逆接の(イ)を入れるのが適切。

なお、(ア)の「そして」という接続詞は、本来は累加の働きを持つが、非常に守備範囲が広い。この C D のどちらに入れても意味がそれなりに通ってしまう。しかしながら、設問で求められているのは「最も適当な言葉」である。より「その場所に入れる必然性」が高いものがあれば、そちらを優先的に入れていくべきだろう。

問7 設問の要求は以下の二つである。

① 欧米人は日本人のどのような点を「権威主義的」というのか

② ①に対して欧米人のあり方はどうなのか

①については傍線部分の直後に説明がある。「権威主義的とは……自分以外の権威に依存して生きていることをいうのである。

その権威が世間なのである」（53～54行目）という部分に注目。要するに「世間という自分以外の権威に依存して生きている点」ということだ。これが押さえられれば②も簡単だろう。「欧米人」は「自分という権威」に依存するのである。**問2**で検討した第二段落の記述から、「個人の意思に基づく」「個人の尊厳がある」というニュアンスを抽出すればよいだろう。

以上二点の踏まえられた解答ならばＯＫ。なお、解答にあたっては、設問の表現に照らして「欧米人が……のに対し、日本人は……という点。」という形でまとめればいいだろう。このように、設問の表現から解答の形をつくるというのも一つの方法である。

L3T/L3TK/L3TF
難関国公立大国語／難関大国語Ｔ
京大国語／難関大国語Ｔ（京大）
一橋大国語／難関大国語Ｔ（一橋大）

Z-KAI

会員番号	

氏　名	

不許複製